

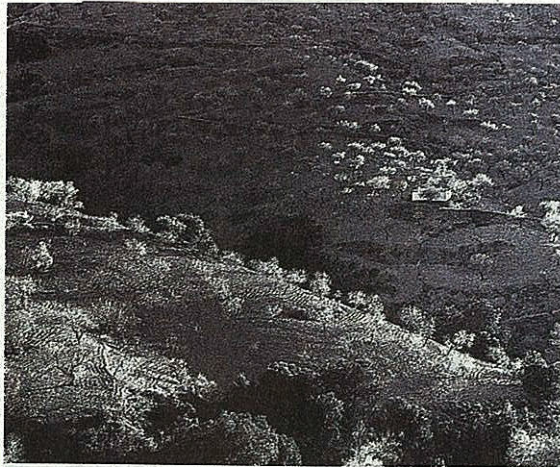
写真の志 つなぎたい

事故死の與語さん遺作展

5年前、ロンドン在住の写真家、與語直子さんが交通事故で亡くなった。34歳だった。事故の直前にスペインで撮影したフィルムをアーティスト仲間らが現像。遺作となる写真集「GRANADA」

が完成し、展覧会が27日、東京都内で始まった。與語さんの遺志を継ぐと、若手芸術家を支援するプロジェクトも立ち上がった。愛知県生まれの與語さんは、1998年にロンドンの

美術大学卒業後、モノクロの風景写真を撮り始めた。2005年、真夜中に人気がない駅や街並みを撮影した作品を集めて、東京と名古屋で初めての個展を開いた。その年の暮れ、與語さんは自転車で勤務先に向かっていたところ、トラックと衝突し、亡くなった。スペイン・グ



①2005年11月、スペイン・グラナダで與語さんが撮影した写真②事故死した写真家の與語さん③いずれも近藤さん提供



ラナダへの撮影旅行から帰ってきたばかり。自宅に未現像のフィルム40本が残された。夫で画家でもある近藤正勝さん(47)は、「苦しみながら、自分の作風の方向性がやっと思えてきた、その矢先の事故だった」と話す。遺体と対面しても信じられず、2人きりの病室で2時間、妻に語りかけていたという。夫婦が住んでいたロンドン市内のアパートは、アーティスト仲間のたまり場でもあった。事故から約1年後、友人の写真家らが與語さんのフィルムを暗室で現像した。グラナダの雄大な山肌を地誌的にとらえた、400点の写真。「これだけいいものがあるなら、写真集にしよう」。仲間

4人で16点を厳選し、出版社や画廊を回って、写真集「GRANADA」(蒼穹舎)はできあがった。

志半ばで逝った與語さんの活動を、未来につなげられないだろうか。そう考え、少額ながら彼女が残した財産を使って、賞を立ち上げることにした。英国では、若手美術家を育てる助成プログラムが多いが、日本にはあまりない。このため、毎年、若手芸術家1人に制作旅行のための資金として20万円を出す。3年分の資金はあるが、以後は美術愛好家らから寄付を募って続けていきたい、という。

第1回には約50人が応募。展覧会初日の27日夜、受賞者を発表する。展覧会は3月27日までの木、金、土曜日、千代田区神田錦町3の9のプロジェクトスペースKANADAで。午前11時から午後6時まで。入場無料。写真集も販売する。問い合わせは、KANADA(03・35518・6176)へ。(杉山麻里子)